中国の大手ビールメーカー、10月の生産量が前年同月比7.2%減

中国の工業統計対象企業の10月のビール生産量は1,647万ヘクトリットル。1～10月は2025年同期比2.9%減となった。

2026年11月20日（金）



業界データによると、中国のビール生産量は10月に減少し、年初来の減少ペースを上回る落ち込みとなった。データは11月18日（水）に公表された。

業界誌China International Beer NetworkはBeerwを引用し、中国の工業統計の対象となる醸造所が10月に生産したビールは1,647万ヘクトリットルだったと報じた。前年同月比では7.2%減。1～10月の生産量は合計3億590万ヘクトリットルで、2025年の同期間を2.9%下回った。

10月の減少率は、年初からの10カ月間に記録された減少率を4.3ポイント上回った。この数字は、2026年全体の動向と比べて10月の落ち込みが大きかったことを示す。ただし、比較対象とする期間は異なり、この減速が続くかどうかを示すものではない。

データの対象は、中国の「規模以上企業」の基準を満たす企業による工業用ビール生産だ。今回の基準では、主業務の年間売上高が2,000万元以上の生産者を指す。このため、数値はビール市場全

体を表すものではなく、報告基準を下回る小規模生産者は含まれない。

元資料のキロリットル表記を換算し、データはヘクトリットル単位で公表された。発表資料に金額の記載はなく、ビールの種類別の内訳も示されていない。ラガー、エール、スタウト、クラフトビール、ノンアルコールビールに関する個別のデータもなかった。

SteelHomeも11月18日（水）、業界報道と照合した別の参照資料として、10月の工業生産統計表を掲載した。ただし、データの扱いには一定の注意が必要だ。引用された媒体は二次情報源であり、他の報道は数値を中国国家統計局に帰属させているものの、同局の元の統計表を独自に確認することはできなかった。

このため、生産量の数字だけから判断できる範囲には限りがある。大手醸造所の生産が10月に弱まり、年初来の累計も2025年の水準を下回ったことは示されているが、減少の原因までは明らかにならない。工業生産は、需要や在庫、出荷の動向、生産計画の変更など、さまざまな要因で変動し、公表された数値ではそれぞれの影響を切り分けられない。

また、今回のデータには季節調整済みの前月比も含まれていない。そのため、通常の季節変動を調整したうえで、10月が9月より低調だったかどうかを公表資料から判断することはできない。ビール生産は天候や祝日の時期に左右されることが多く、前月比より前年同月比のほうが有用な場合もあるが、季節調整済みデータがないことは依然として重要な空白となっている。

元資料には、同じ発表内で比較できる2025年10月の生産量の実数も記載されていなかった。そのため、発表された数値だけでは、前年同月比7.2%減という変化率から前年の生産量を単純に逆算できない。1〜10月の累計が2.9%減となった点にも同様の注意が必要だ。企業が規模以上企業の区分に入ったり外れたりすることで、統計の対象範囲が時とともに変わる可能性があるためだ。

こうした限界はあるものの、10月の数値は、中国の工業活動や消費関連の製造業を追うアナリストにとって注目すべきシグナルだ。ビール生産量は、特に消費が通常増える暖かい時期に、食品・飲料製造の動向を示す指標の一つとして注視される。10月の減少幅が年初来の数値を上回ったことは、大手生産者を取り巻く状況が2026年の平均的な傾向よりも同月に悪化していたことを示唆する。

中国は生産量で世界最大級のビール市場であり、国内生産の変化は醸造会社やサプライヤー、商品取引業者から注目されている。10月の数値は、少なくとも公式の工業統計対象に含まれる大手生産者では、年後半に入っても生産が圧迫された状態にあったことを示している。

公表データに地域別の結果がないため、今回の発表からは、減少が特定の省に集中していたのか、全国に広がっていたのかは分からない。また、国内販売向けの生産と輸出に関連する生産は区別されておらず、製品構成の変化が総生産量に影響したかどうかも示されていない。

今回の発表から明確に分かるのは、基準を上回る中国の醸造所が10月に前年同月より少ない量のビールを生産し、2026年1〜10月の総生産量も2025年の同期間を下回ったことだ。10月の減少幅が拡大したことで、業界の弱さを示す新たな兆候が加わったが、利用可能なデータだけでは、同月に弱さが深まった理由までは説明できない。